

Creating Life of Your Dreams

～ 半歩先の技術で人々の生活を豊かに ～

個人投資家向け会社説明資料

株式会社 **ヴィッツ** (東証一部4440)

2021年7月

本日の内容

1 ヴィッツの概要

2 成長事業

3 SDGsへの取り組み

4 株主還元

会社概要

会社名	株式会社ヴィッツ
設立	1997年6月11日
代表取締役	社長 服部博行
連結売上高	22億22百万円（2020年8月度）
連結営業利益	3億36百万円（2020年8月度）
連結従業員数	173名（2020年8月度）
子会社	（株）アトリエ、（株）ヴィッツ沖縄
関連会社	アーク・システム・ソリューションズ（株）
時価総額	75億29百万円（2021年7月21日）
株価	1,818円（2021年7月21日）
証券コード	4440（2019年4月マザーズ、2020年7月東証一部上場）
主要取引先	トヨタ自動車(株)、アイシンググループ、パナソニックグループ、オークマ(株)、レーザーテック(株)

Creating Life of Your Dreams

半歩先の技術で人々の生活を豊かに

Purpose

最先端の技術を優しく誰にでも

- ▶ ソフトウェアをシンプルにわかりやすく
- ▶ モノからコトへ

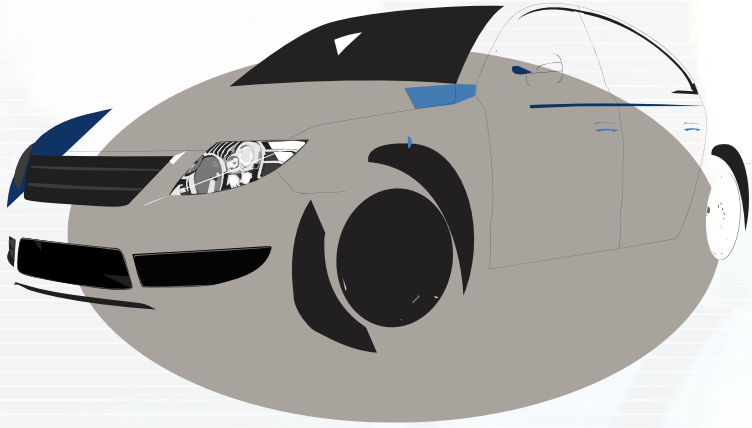
ヴィッツの価値創造モデル

eトピック



世の中のトレンドに先んじて研究開発、ノウハウ蓄積を行っている

ヴィッツの技術が使われている製品イメージ



車



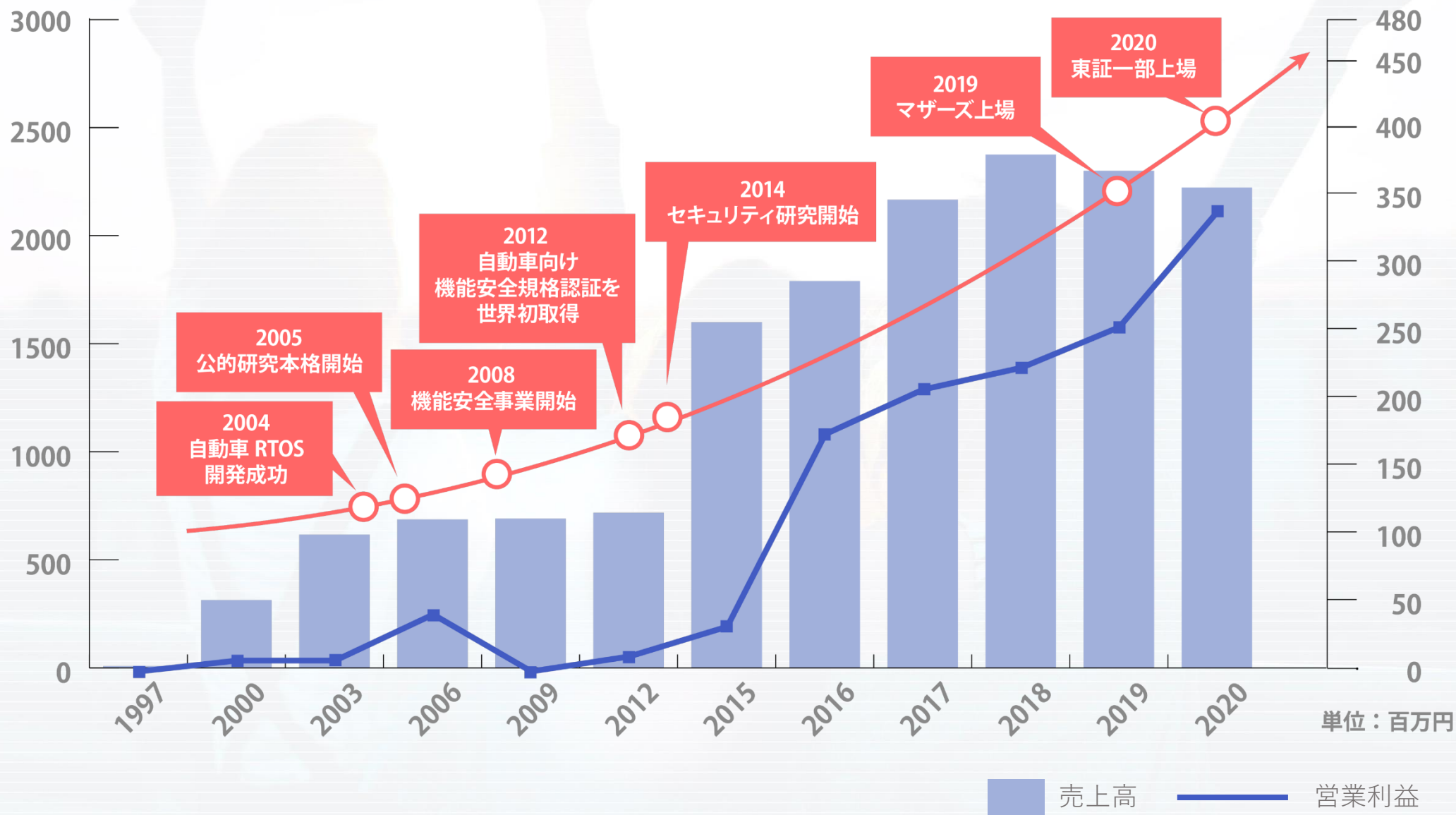
AV家電



工作機械

ヴィッツの歩み/売上高及び営業利益の推移

単位：百万円



社長就任前（2015年8月期）と後（2020年8月期）の経営指標比較

	指標	単体 2015年8月期	連結 2020年8月期	増減値	成長率
収益性	売上高	1,499百万円	2,222百万円	+723百万円	+1.5倍
	営業利益	14百万円	336百万円	+322百万円	+23.4倍
	営業利益率	1.0%	15.2%	+14.2ポイント	—
	ROE (自己資本利益率)	4.3%	12.5%	+8.2ポイント	—
財務 安全性	総資本	465百万円	2,439百万円	+1,973百万円	5.2倍
	株主資本	98百万円	1,871百万円	+1,773百万円	19.1倍
	自己資本比率	21.1%	76.7%	+55.6ポイント	—
	流動比率	146.9%	663.8%	+516.9ポイント	—
	固定長期適合率	59.0%	13.3%	△45.7ポイント	—

第3四半期決算

[連結損益計算書]

単位: 百万円	2020/8期 3Q	2021/8期 3Q	前年同期比		進捗率	通期 業績予想値
			増減額	増減率		
売上高	1,647	1,610	△37	△2%	74%	2,166
売上総利益	565	570	+4	+1%	—	—
売上総利益率	34%	35%	—	—	—	—
販売管理費	343	370	+27	+8%	新事業創出、 販路拡大のため 販売管理費が増加	
うち、広告宣伝販促費	25	48	+22	+86%		
うち研究開発費	30	43	+12	+41%		
営業利益	222	199	△23	△11%	79%	253
営業利益率	14%	12%	—	—	—	—
経常利益	245	214	△30	△12%	80%	269
親会社株主に帰属する 四半期純利益	159	150	△9	△6%	81%	186

※研究開発に係る補助金については、従来、販管費の「研究開発費」から控除する方法によっておりましたが、当第3四半期連結会計期間より営業外収益として計上する方法に変更したため、2020年8月期3Qの数値は当該会計方針の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

2021年8月期 連結業績予想（2020.9.1-2021.8.31）

新型コロナウイルスによる受注への影響は解消されつつあり、また、研究による機会損失の低下に努めたことにより、売上高は前回予想のレンジ内上限値に近い金額に着地すると見込んでおります。各段階利益は、セキュリティ関連の知財販売やサービスなどの高収益案件の増加、リソースの見直し等によるコスト削減により粗利率向上に努め、また、研究の一部を受託による売上とし研究コストを削減した結果、前回予想の上限値を上回る見込みであります。

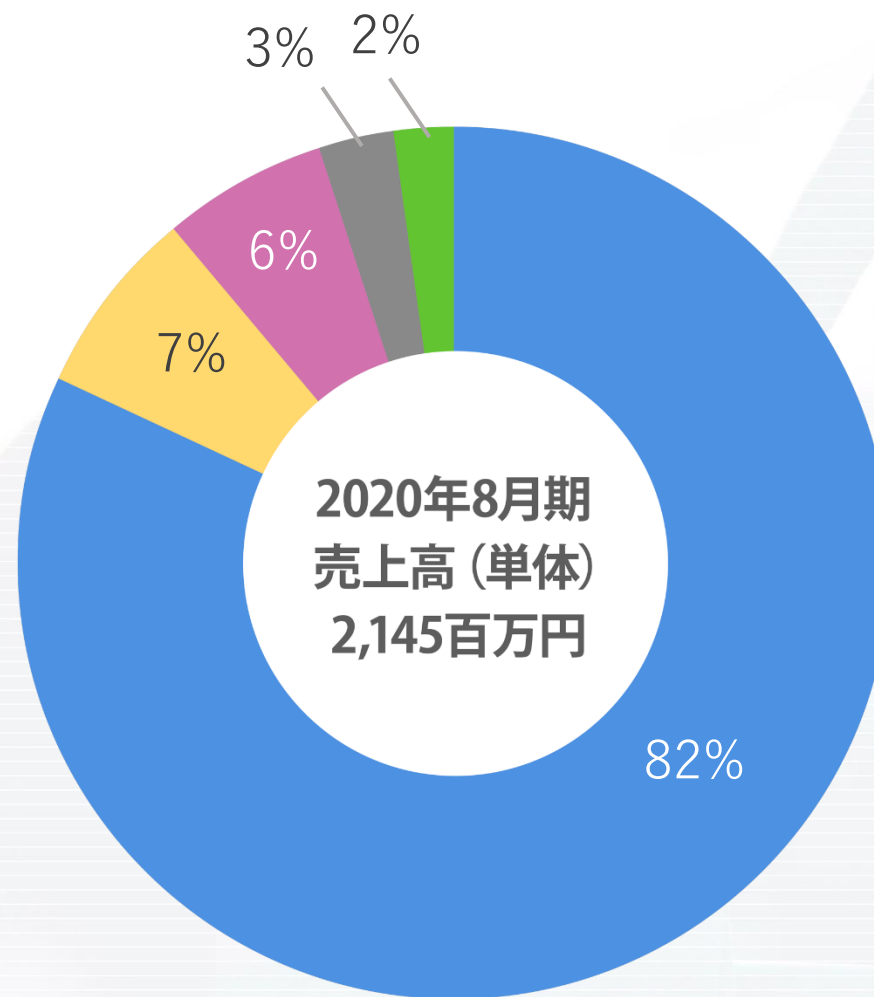
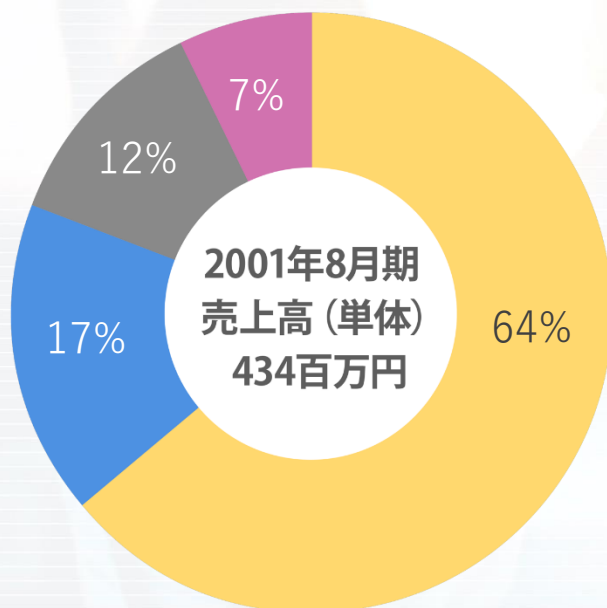
	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
前回発表予想(A)	2,000～2,200	180～200	185～205	127～141
今回発表予想(B)	2,166	253	269	186
増減額 (B-A)	△34～166	53～73	64～84	45～59
増減率(%)	△1.5～8.3	26.5～40.6	31.2～45.4	31.9～46.5
(参考) 前年実績 (2020年8月期)	2,222	336	331	221

単位：百万円

ビジネスモデル



売上高構成比の比較



工作機械 自動車 その他 家電 半導体

本日の内容

- 1 ヴィッツの概要
- 2 成長事業**
- 3 SDGsへの取り組み
- 4 株主還元

ヴィッツの成長事業

サービスビジネス



スマートシティ
スポーツエンターテインメント
映像エンターテインメント



スマートファクトリー
バーチャルスタジオ



スマートシティ
自動運転

サービスビジネスで 40億円の売上 を目指す

安全安心な個人情報管理で目的を共有する新しい エンターテインメント×モビリティのサービス創出

2022年以降 Afterコロナ エンターテインメント×モビリティ（市場規模 3兆円）へ本格参入
2025年には **スポーツツーリズムは4.9兆円市場**に成長するとみられている



イベント×モビリティ
3.7兆円

2020年



ファン×モビリティ
4.9兆円

2025年

出展：スポーツ庁 スポーツツーリズム

IoTを駆使して多業種融合した
スポーツインフラへ

WITZの優位性

個人情報及安全安心に活用される新サービスの提供

「求められるエンターテインメントをそれぞれにサービスを提供」 「個人情報の一方的な搾取を防ぎ、大切な情報を安全に活用」



サービスデザインをDXで加速させる シミュレーションツール「WARXSS®」の成長可能性

成長戦略

「Best Price & Best Practice」

自動車分野向け高品質シミュレーション環境のサブスクリプション提供

既存顧客

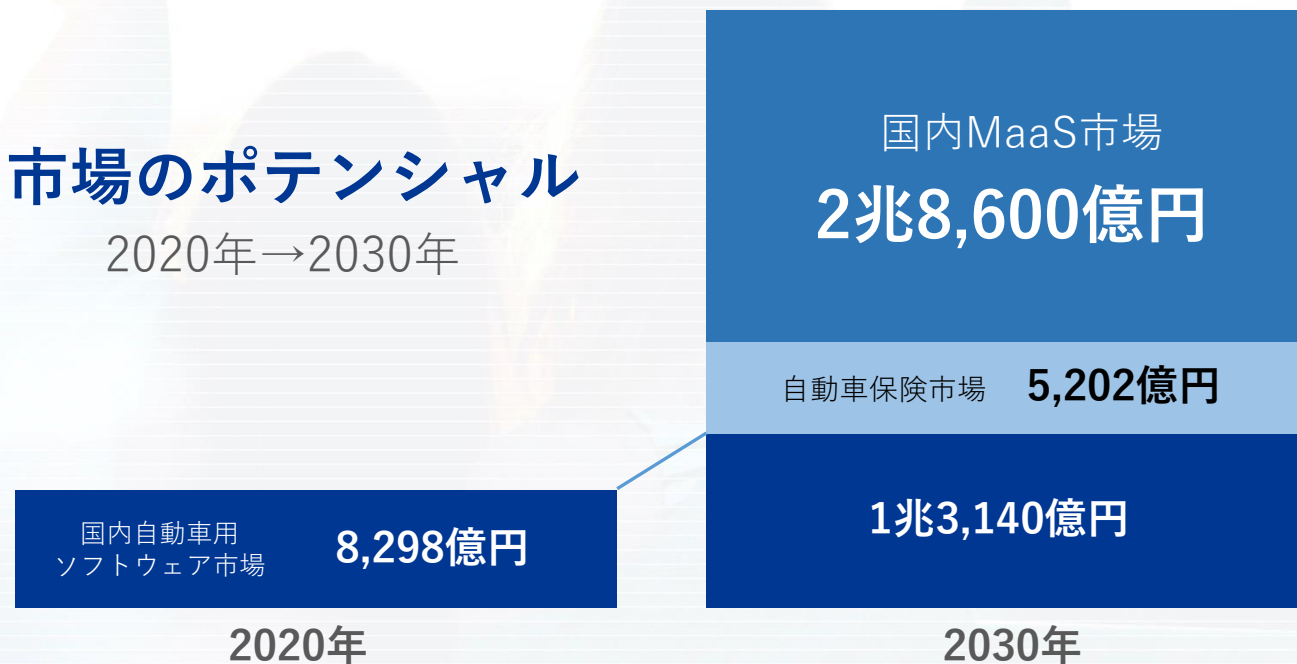
自動車メーカー
自動車部品メーカー

潜在顧客

MaaS事業者、保険金融業

市場のポテンシャル

2020年→2030年

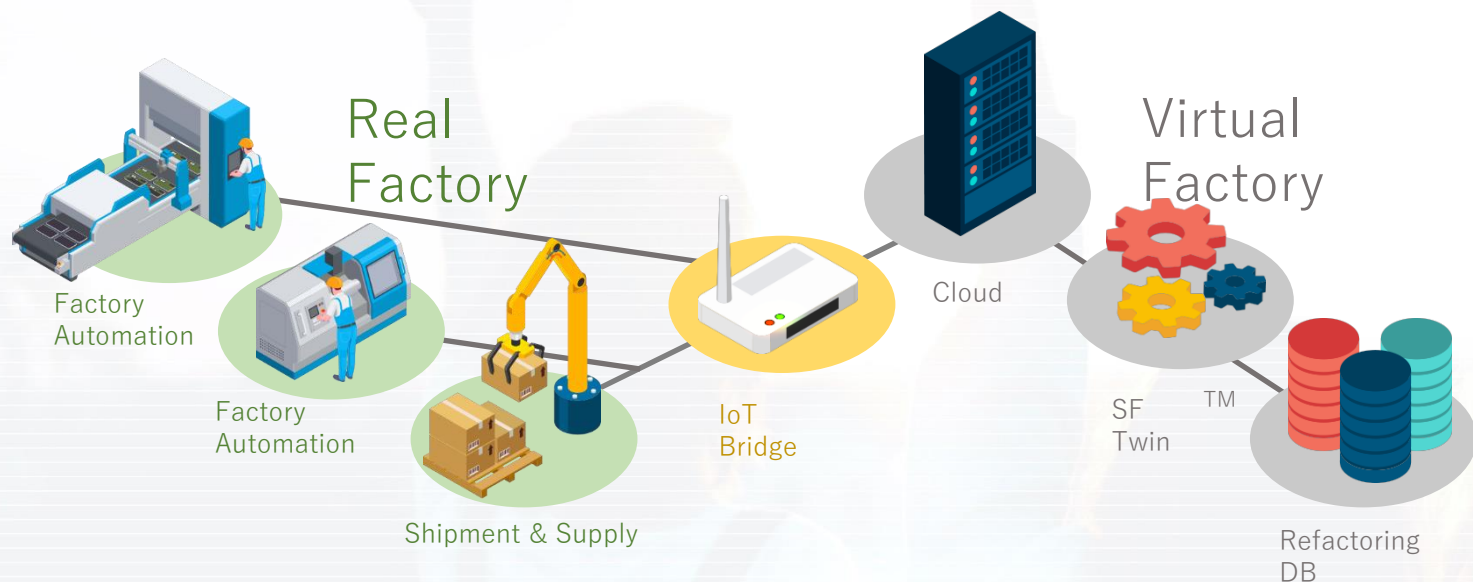


引用元：https://jidounten-lab.com/u_market-2-autonomous

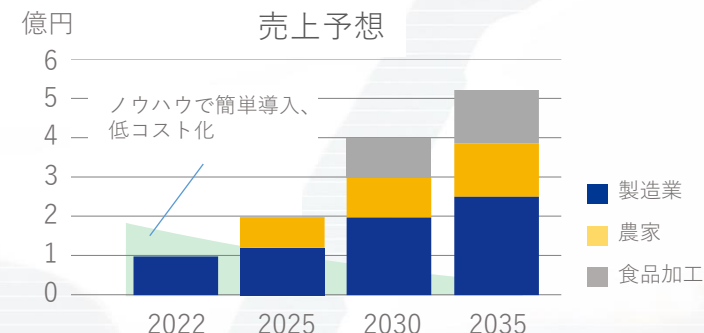
自動車保険算定：https://www.sonpo.or.jp/report/statistics/syumoku/ctuevu0000004shr-att/2020_4.pdf

MaaS市場：<https://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/2003/18/news062.html>

製造業中小企業のDXをコモディティ化する デジタルツインソリューション「SF Twin™」の成長可能性



DXアプリを一括提供



CAGR 75%の市場ポテンシャル

【製造業DX市場】

2020年
4,000億円

2030年
7,000億円

製造業DX市場規模： <https://ainow.ai/2020/11/25/248925/>

WITZの優位性

生活を日々向上させるサブスクサービス

導入しやすい価格で、日々の活動をデジタル化し、改善活動を自動化

ターゲット

製造業中小企業
(全国60万社のうち6万社)

将来的な
潜在顧客

農業法人、販売農家、食品加工業
(1万社) (100万戸) (4万戸)

Dell Technologies 中堅企業 DX アクセラレーションプログラム にて当社のAIソリューション「SF Twin」が優勝いたしました

株式会社ウィッツ（本社：名古屋市中区 代表取締役社長：服部 博行 以下「当社」）は、2020年10月7日に開催されました、Dell Technologies DXアクセラレーションプログラム 本選において、当社の次世代工場の安全化と効率化を実現するDX（Digital transformation）、AIソリューションである「SF Twin（Sustainable Future from Digital Twin）」が優勝したことをお知らせいたします。

当社は、Industry4.0が目指す、高度に自動化された次世代工場、いわゆるスマートファクトリーの実現を支援する技術として、安全化と効率化という相反する要求を両立するための仕組みの検討を続けており、今回「SF Twin」として具体的なソリューションを提案させていただきました。

この「SF Twin」は、実工場とまったく同じ工場を仮想環境で実現するデジタルツインモデルを用いたものです。これにより、仮想工場と実工場を高度に連携させ安全かつ効率的な生産を実現できる技術であります。

「SF Twin」には大きな3つの特徴があります。

・工場の安全化を支援するデジタルツイン

自律搬送ロボット（AMR）、協働ロボットなどの先進ロボットのリスクアセスメントとリスクモニタリングを実現します

・工場の高度自動化を支援するデジタルツイン

各種ロボットの動作状況を人工知能が学習し、工場の生産能力向上を実現します

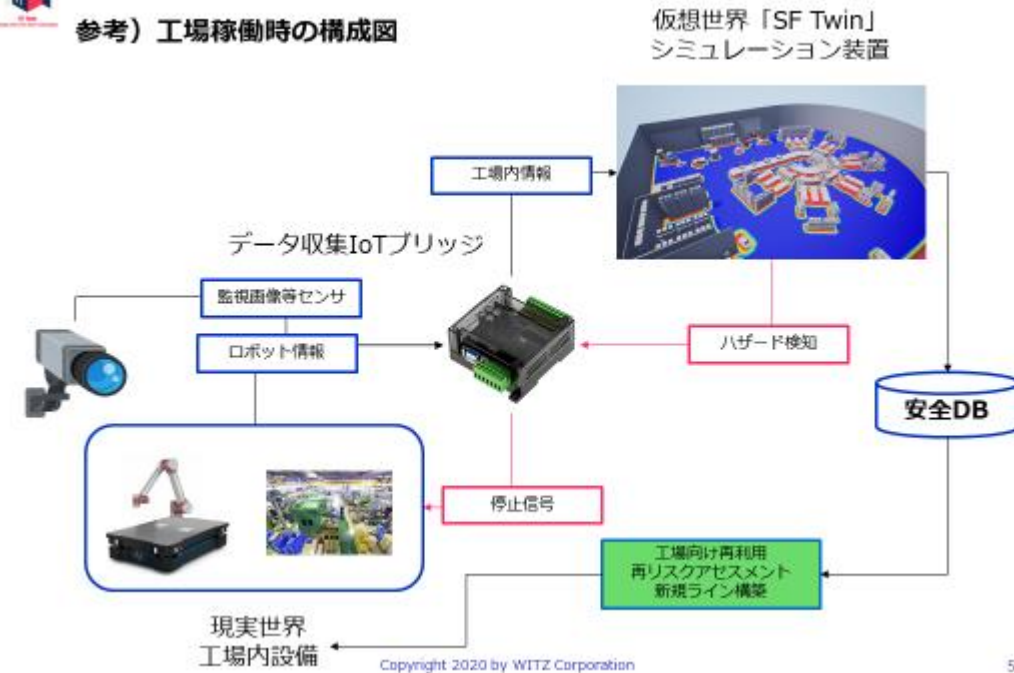
・工場の効率化を支援するデジタルツイン

工場内の必要な部分をサイバー空間（仮想）で構築した財産を永続的に活用し、安全と自動化をより高度なレベルに引き上げることで、効率化を推進します

「SF Twin」は次世代工場において活用が想定されている、自律型ロボットと作業者の協働を実現するため、リスクアセスメントとリスクモニタリングの機能を提供いたします。



参考）工場稼働時の構成図



当社は、「SF Twin」を提供することで、安全かつ効率的な次世代工場の実現に貢献いたします。

ヴィッツと北広島市が次世代移動サービスに関する覚書を締結

株式会社ヴィッツ(本社:名古屋市中区、代表取締役社長:服部 博行 以下「当社」)は、北海道北広島市(市長:上野正三 以下「北広島市」)と、次世代移動サービス(※)を活用して、地域の移動に係る課題解決や都市の価値向上のための研究や実証実験に相互に協力して取り組む覚書を締結しました。

当社は、当社の提案する 地域密着型 Town MaaS を北広島市の次世代移動サービスとして実現し、豊かな社会生活の創生に貢献したいと考えております。地域密着型 Town MaaS は、地域住民宅・交通拠点・商業施設等との間の必要な移動手段と、移動中の楽しさを提供する新たなサービスです。

今後、当社と北広島市は、人口減少・高齢化においても快適に暮らせる生活環境の構築や持続可能な都市経営の実現など、地域活性化と地方創生の実現に向けて協力して取り組んでまいります。

[締結日] 2020年4月14日

[連携内容]

- (1)自動走行及びMaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)に関すること
- (2)市民の移動に係る課題解決に関すること
- (3)その他覚書の目的を達成するために必要と認める事項

※ 地域の課題を解決する、新たな技術を使った移動サービスを指します

ジャスミー株式会社と MaaS 事業の提携のお知らせ

株式会社ウィッツ(本社:名古屋市中区 代表取締役社長:服部 博行 以下「当社」)は、MaaS (Mobility As A Service) 事業においてジャスミー株式会社(本社 東京都港区 代表取締役社長:佐藤一雅様 以下ジャスミー)と提携いたしました。

ジャスミーは、ブロックチェーン技術を活用し、GAFA モデル異なり個人情報を利用者の意思で管理することができる『データの民主化』を実現する会社です。そのため利用者の個人情報を保護しつつ、様々なサービスを提供できるプラットフォームを多くのサービス企業への提供を目指しております。

当社が提案している“地域密着型 Town MaaS “で暮らしに役立つ新しいサービスを提供するために、利用者の活動データなどビッグデータを収集分析する必要があります。個人情報を保護したデータ収集や分析で、ジャスミーのブロックチェーン技術を活用する計画です。

今後、MaaS などの新たなサービスを共同で提供するために、社会実装や実証実験などを共同で進めるとともに、R&D についても協力いたします。



中央にジャスミー代表取締役 安藤国威さん(元ソニー社長)を挟んでの記念撮影。安藤国威さんの右側に写っているのはウィッツ服部社長



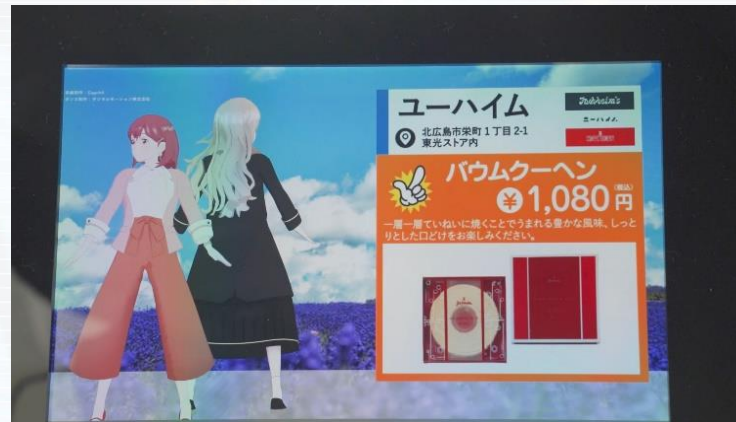
新交通の実証実験「きたひろライド」にウィッツの MaaS プラットフォーム「SXiM」を提供しました

株式会社ウィッツ（本社：名古屋市中区 代表取締役社長：服部 博行 以下「当社」）は、利益循環型サービスの提供を可能とするWITZ MaaS プラットフォーム「SXiM」（以下、SXiM）の開発を完了し、実証実験を開始しました。

当社は、北海道北広島市（市長：上野正三 以下「北広島市」）とともに持続可能な公共交通を実現するために、広告やエンターテインメントサービスによる収益を交通事業に循環させる、利益循環型サービスの有効性の検証に取り組んでいます。

本検証では、当社が開発したSXiMを利用し、市民の方々に実際に参加いただき、嗜好や移動の分析、情報や広告提供の方法などを検討しています。

第1回目の実証実験を2020年11月12日（木）から25日（水）まで実施し、現在は第2回目の実証実験を行っています。



車両内広告



サービス提供イメージを、わかりやすくご紹介するために動画を作成しましたので、ご覧ください。
URL:<https://youtu.be/3cYqsM5gkSQ>

本日の内容

- 1 ヴィッツの概要
- 2 成長事業
- 3 SDGsへの取り組み**
- 4 株主還元

持続可能社会への貢献

先行開発を通じたビジョン先取りのための技術力を持つ

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



工場（モノ・人・ロボット）を
仮想空間で再現



自動運転をシミュレーション

11 住み続けられる
まちづくりを



本日の内容

- 1 ヴィッツの概要
- 2 成長事業
- 3 SDGsへの取り組み
- 4 株主還元**

株主還元基本方針

基本方針

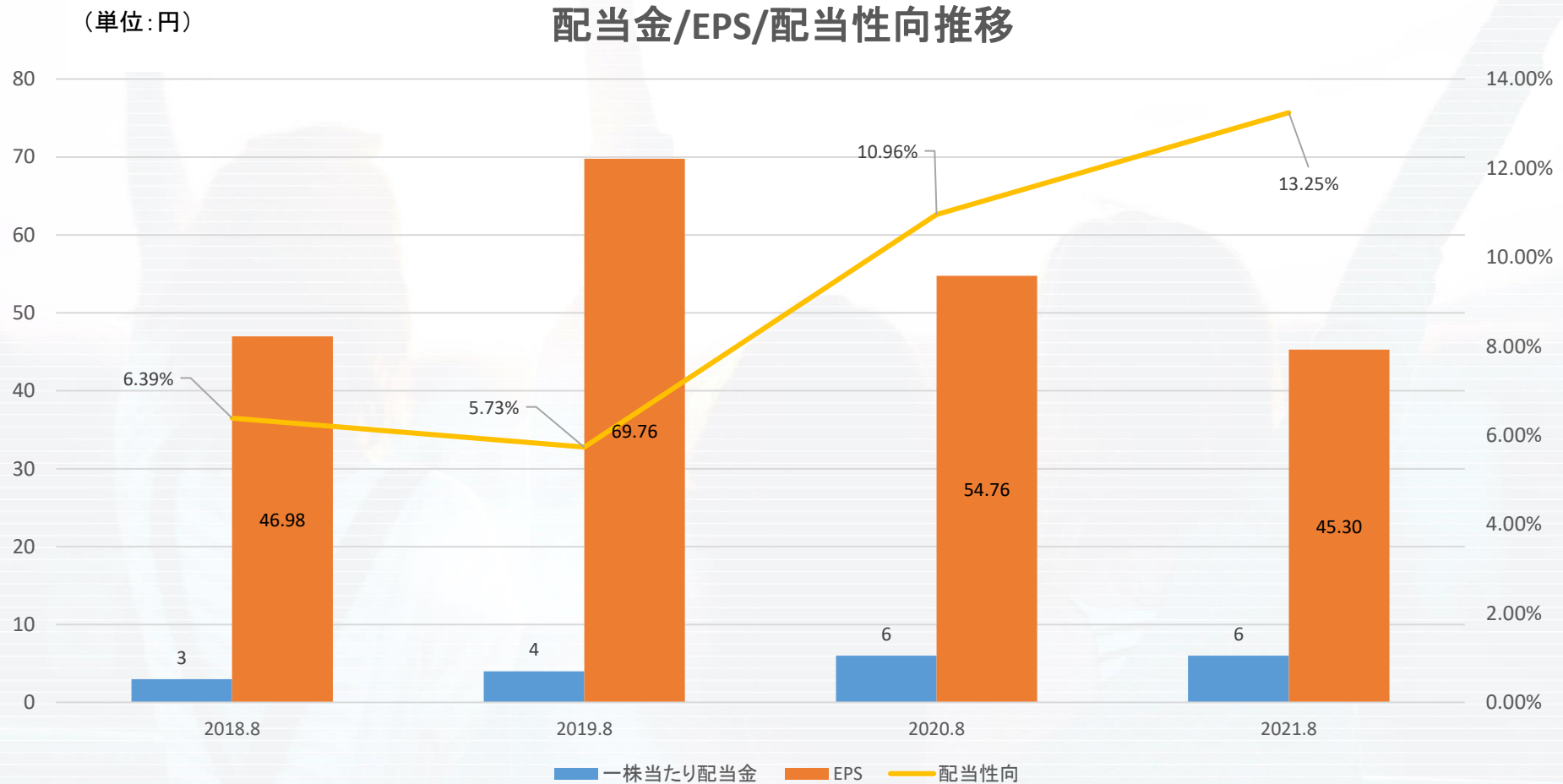
事業継続性と株主に対する安定的かつ継続的な利益還元のバランスを取りながら配当を実施する方針であります。

内部留保資金につきましては、新技術の獲得に伴う研究事業や事業拡大を目的とした中長期的な事業資源として利用していく予定であります。

当社は、定時株主総会を決定機関とした年1回の期末配当を行うことを基本方針としております。

なお、当社は会社法第454条第5項に基づき、毎年2月末日を基準日として、取締役会の決議により剰余金の配当（中間配当）ができる旨を定款に定めております。

配当金/EPS/配当性向推移



当社は2018年11月1日付で普通株式1株につき1000株の割合、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2018年、2019年実績につきましては、当該分割に伴う影響を加味し遡及修正を行った数値を記載しております。

本資料における注意事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後の事業運営や環境の変化等の状況の変化により大幅に異なる可能性があります。

今後、新しい情報・事象の発生があった場合においても、当社グループは、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報について、更新・改定を行う義務を負うものではありません。

また、本資料に含まれる当社グループ以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社グループは当該情報の正確性、適正性等を保証するものではありません。